

毎日新聞 2020年11月18日長野版(23) 掲載

# 横山航汰さんに優良賞

## 生物工学科 動物バイオテクノロジーコース

### 毎日農業記録賞

農業や食、環境に関する思いや体験などをつづる全国規模の作文コンクール「第48回毎日農業記録賞」（毎日新聞社主催、農林水産省、県・県教委など後援、JA全中など協賛）の受賞者が17日発表された。県



内からは、県立南安曇農業高3年、横山航汰さん(18)の「私の農高（濃厚）人生」が高校生部門の優良賞に輝いた。また、ともに同高3年、犬飼雅人さん(17)の「命の儂（はかな）さ」と中村茉那美さん(18)の「逃げた先で出会ったもの」が、同部門の地区入賞(毎日新聞長野支局長賞)に選ばれた。【佐藤浩】

# 横山航汰さんに優良賞

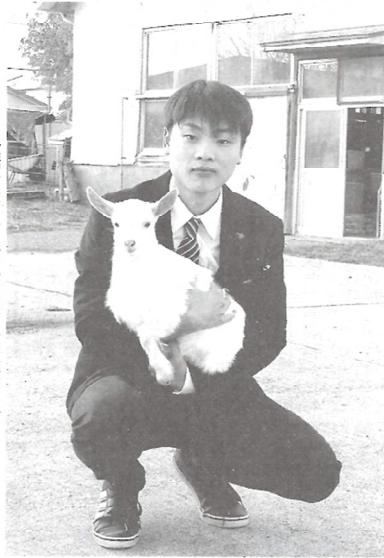
### 南安曇農業高3年 「濃厚」な農高生活つづる

横山さんは、中学で進路を南安曇農高に決める頃から現在までの3年間を振り返って記した。「受賞は」驚きました。文章を書くのは好きなので良かったです」と喜んだ。中3の時、同高に通っていた姉のアドバイスや動物が好きなことなどから、同高の学校見学に参加し、関心を深めて進学を決めた。高1の時には鶏舎の臭いに驚き、慣れない作業に苦悶したが、牛舎の掃除などにやりがいを感じた。高2に進級してからはほぼ毎日畜舎に取組んだ。鶏をひなから育て、最後の食肉処理まで担い、肉を食べた。「命を自分の手や目で経験したんだ」「ぜひそなたも」の言葉の重みを体得できた。また「や

れぬ動物園などの課外活動を通して、コミュニケーションの大切さを学び、「自身の会話スキルも高めることができた。」「濃厚」だったという農業高生活。「親や先生、先輩、友達、後輩、そして動物たちのおかげで今を生きていられる」と実感できた。そして「人や動物に優しく接する心の語

## 長野支局長賞に犬飼さん、中村さん

を得ることができた」と振り返り、今後は心の扉を大きく開いていきたい」と結んだ。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で5月には登校できず「牛や羊などの動物を鼻らせていたという。今は卒業論文執筆の準備に忙しい日々だ。将来は、慣れ親しんだ松本市内で働きたいと考え、来春には地元で動物を扱う仕事と触れ合おうと、志望校が少し変わった」といった「気づき」がでるようになり、自分の変化を自覚しています。動物を通して地域の方々と話をする機会を持っていたので、大学でもその経験を生かしていきたい」と夢を膨らませる。



世話をしてもらって育った横山航汰さん  
― 南安曇市農科の南安曇農高で

農業や食、環境に関する思いや体験などをつづる全国規模の作文コンクール「第48回毎日農業記録賞」（毎日新聞社主催、農林水産省、県・県教委など後援、JA全中など協賛）の受賞者が17日発表された。県内からは、本校3年、横山航汰さんの「私の農高（濃厚）人生」が高校生部門の優良賞に輝いた。また、本校3年の犬飼雅人さんの「命の儂さ」と中村茉那美さんの「逃げた先で出会ったもの」が同地区の毎日新聞長野支局長賞に選ばれた。